

星空プロムナード 暦 惑星 セタよもやま話

作花 一志 (京都情報大学院大学)

北斗七星が西に傾き、天の川が東空に見える頃となりました。惑星も木星以外はよく見えます。梅雨が終わればこのような夏の星空が期待できます。

○満月 ●新月

日	月	火	水	木	金	土
7月 July						
				1	2	3
4	5	6	七夕小暑 7	8	9	10
11	● 日食 12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	大暑 23	24
観望会 25	○ 土用丑 26	27	28	29	30	31

8月 August						
1	2	3	4	5	6	立秋 7
8	9	● 10	11	12	13	14
15	旧七夕 16	17	18	19	20	21
22	処暑 23	24	○ 25	26	27	28
29	30	31				

9月 September						
			二百十日 1	2	3	4
5	6	7	● 白露 8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	名月 22	○ 秋分 23	24	25
26	27	28	29	30		

金星

宵の明星として西空に輝いています。7月10日レグルスと接近し8月の惑星集合(金星火星土星)に向かっていきます。

火星

しし座からおとめ座へ進んでいます9月11日にスピカと並びます。

木星

南天のみずがめ座・うお座あたりで見られます。9月18日に天王星と1度弱まで接近します。

☆・星空プロムナード・☆

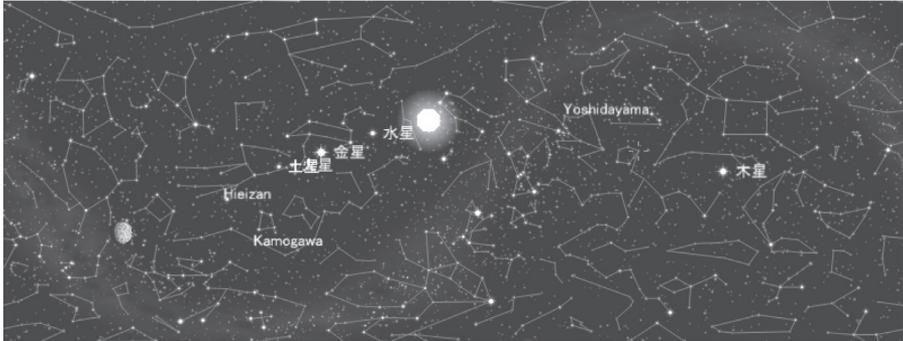
土星

レグルスとスピカの間であり、日没後しばらくは眺められます。

太陽

7月6日に地球は遠日点を通過します。7月12日の新月には皆既日食が起りますが、南太平洋でないと見られません。

下図は7月21日における5惑星と3小惑星の配置です。(ステラナビゲータ8)



7月後半から8月前半にかけて火星・金星・土星が西の空に集合します。特に8月12日前後には水星から天王星まで、ほぼ一直線に並びます。詳しくはp24を。後半夜にはペルセウス流星群が見られるかも知れません。

梅雨入り

気象庁はその年の梅雨の時期を予測し、梅雨入り・梅雨明け宣言を行っています。実際には「○月△日頃、□□地方が梅雨入りした模様です。」とやや曖昧な表現となっていますね。梅雨明けのときも同様で、祇園祭りの山鉦巡行が行われるかどうか気になります。ところが実は暦の上で入梅とは「太陽の視黄経が80度となる日」と確定しているのです。毎年6月10日頃になりますが、と言ってもこの日から実際に梅雨に入るわけではありません。大暑(7月23日)も同じことですね。

七夕と和歌

七夕は天の川をはさんで離ればなれに暮らしている織姫と牽牛が年に一度出会える夜といわれ、中国では漢の時代から、日本では奈良時代から朝廷の伝統行事でした。「星」を含む和歌は少ないですが、七夕について詠んだ歌はたくさんあります。

かささぎの渡せる橋におく霜の 白きを見れば夜ぞ更けにける
大伴家持

☆・星空プロムナード・☆

彦星の行き逢ひを待つかささぎの わたせる橋を我にかさなむ

菅原道真

朝戸あけて眺めやすらむ七夕の あかぬ別れの空をこひつつ

紀貫之

思ひやる心もすずし彦星の つままつ宵のあまの川風

藤原清輔

天河なかれてこふる七夕の 涙なるらし秋のしら露

詠み人知らず（後撰和歌集）

このような歌が詠まれた季節はむしろ秋のように思えます。7月7日は梅雨の末期で、集中豪雨の季節ですからなかなか星は見えません。なぜこんな時にやるのか？と思いますね。実際1ヶ月遅れの8月7日に行っているところが多く、仙台七夕祭りは特に有名です。七夕祭は本来旧暦で行われるもので、旧暦の七夕については昨年 No7 p 37 で詳しく述べたので繰り返しません。通常は8月上～中旬となります。その頃には、梅雨も上がって天候も安定しているし、織姫も牽牛も天高く眺めやすいところにやってきます。

今年は大文字送り火の夜と重なるので観る楽しみが増えますね。

地上の天の川

枚方市に天野川があるのはご存じでしょう。生駒山麓を水源とし淀川に注ぐ一級河川で中流には七夕に関する地名があります。1200年前のプレイボーイである在原業平もここを訪れて歌を詠んでいます。

狩り暮らしたなばたつめに宿借らむ 天の河原に我は来にけり

ところが滋賀県米原市にも天野川があります。伊吹山麓から西へ流れ琵琶湖に注ぐ一級河川で、蜚の名所としても有名です。ここに伝わる七夕伝説については滋賀県民にもあまり知られていませんが、ホテルレイクランド彦根のサイト <http://lakeland.jugem.jp/?eid=94> から引用します。

米原市には天野川（息長川とも呼ばれています）というロマンチックな名前の川が流れていて、世継（よつぎ）と朝妻（あさづま）の境界で琵琶湖に注いでいます。この天野川をはさんで北の世継には蛭子（ひるこ）神社、南の朝妻に朝妻神社があります。

蛭子神社に伝わっている古文書『世継神社縁起之叟（えんぎのこと）』によりますと、七夕伝説の天河の二星、彦星は雄略（ゆうりやく）天皇の第四皇子の星河稚宮皇子（ほしのかわのわかみやおうじ）、織姫星は仁賢（にんけん）天皇の第二皇女の朝孁皇女（あさづまのひめみこ）とあります。古墳時

☆・星空プロムナード・☆

代中期、天野川を隔てて仏道の修行を積んでいた二人はいつしか恋に落ちましたが、そもそも仁賢天皇のお妃は雄略天皇の娘で、その娘の朝孁皇女と星河推宮皇子との間柄は叔父と姪にあたることもあり、会うこともままならぬ悲しい恋だったようです。その後の桓武天皇の延暦年間(782~806)に、奈良興福寺の仁秀という僧が、この地に伽藍(がらん)を建てる際に、二人のことを知り、二人を牽牛織女に見立ててともに祀ったのが、七夕伝説のはじまりだそうです。

現在、その二人の墓が天野川を挟んで残っています。蛭子神社には、本殿の横に高さ1メートルばかりの自然石(朝孁皇女の墓は元々天野川の上流に円墳の立派な古墳があったのですが、天野川の洪水で流れてしまい、残った自然石をここに祀ったそうです)があり、地元人は昔から「七夕石」とか「七夕塚」と呼ばれていた朝孁皇女の墓が、対岸の朝妻神社境内には、「彦星塚」と呼ばれている石塔が竹藪の中に建っていて星河稚宮皇子が祀られています。



仏教伝来は538年欽明天皇の時代と日本史で習いました。雄略天皇の時代はそれより数十年も前で、当時まだ日本人は誰も仏教を知らなかったはずだ…まあそう言わずに。仏教は公に伝わる前に、大陸の文化に詳しい一部の知識人はすでに知っていて修業していたのかもしれないね。そして当時の北近江は先進地帯だったのかも??

天の川を見上げた翌日にはどちらかの天野川を訪ねてみませんか